

インフルエンザ

☆インフルエンザとは？

インフルエンザウイルスによって起こる感染症で、冬に流行します。症状は風邪と似ていますが、高い熱や倦怠感などの症状が目立ちます。感染力が強く潜伏期間が数日と短いため、集団発生しやすいのも特徴です。まれに重症化して呼吸不全、脳炎・脳症などを起こすこともあります。

A型：まず高熱が出て、後半に咳がひどくなりやすいです。

B型：Aより症状は軽いですが、胃腸症状を伴いやすいです。

予防接種(任意)がありますが、100%の効果ではないため、接種していてもかかることがあります。

<診断>

- ・流行状況や症状を見て疑い、迅速検査を行います。
- ・迅速検査は細い麺棒で鼻の奥をぬぐった検体を使い、15分程度で結果が出ます。早すぎると偽陰性(インフルエンザなのに反応が出ない)の率が上がります。流行期は接触歴や症状で診断することもあります。

<治療>

- ・軽症例は支持療法(咳や鼻水の薬、解熱剤、吸入療法など)で様子を見ます。
- ・症状が強い場合は抗ウイルス薬(タミフル・リレンザ®など、ウイルスの増殖を抑える作用)を使います。漢方薬(麻黄湯、麻黄附子細辛湯)を使用することもあります。抗ウイルス剤は、熱が下がった後もしっかり使いきりましょう。
※発症後数日でウイルスが増えきってしまうため、抗ウイルス剤の効果があまり期待できなくなります。そのため、発熱から48時間以内が抗ウイルス薬の適応となっています。
- ・喘息の治療や、二次性細菌感染に対する抗生剤治療を併用することもあります。

<経過観察・予防について>

- ・小学校以上：発症後から5日かつ解熱後2日経過するまで、
幼稚園まで：発症後から5日かつ解熱後3日経過するまでは出席停止です。
※早く解熱しても、数日はウイルス排出が続くことがわかったため、2012年4月から上記基準に改められました。
 - ・けいれんや異常行動を起こすこともあるため、目の届くところで療養しましょう。
 - ・食欲が落ちることも多いですが、脱水にならないようこまめに水分を取りましょう。
- * 早めに受診した方がよい状況：咳込みや息苦しさで眠れない、水分が十分取れない、顔色が悪い、ぐったりしている、発症から5日常経過しても高熱が続くなどの場合
- * 予防のため、手洗い・消毒の徹底をしましょう。



みどり病院 (小児科)

Tel 058-241-0681

2012年11月作成